

第133回 令和7年11月28日（金）

「～的ということばについて。」

「あのタレント、ビジュアル的にどうなの？」とか「今日の店は場所的にNGだな」など。何かと「～的」が使われているような気がするのですが、この場合は必要ありませんよね。的がなくとも普通に意味が通じます。

「比較的」という言葉もよく耳にします。「比較的あの会社は業績が上昇している」。さてこれは何と比較しているのでしょうか。「A社と比較するとB社の業績は上向いている」といえば明瞭ですが、前者は社会全体から見てというフワッとしたニュアンスが強くなります。

「基本的にはそれは認められない」、この場合の「基本的」は保険の意味で用いられているような気がします。言い換えれば「原則」でしょうか。認められないことが原則なのだが、もしかすると認められる可能性がないわけではない、このような意図が隠れている場合が多いと思います。

「根本的に間違っている」の「根本的」は「すべて」という意味合いだけでなく深い根っこからというニュアンスが含まれています。ただ間違っているだけでなく、そこに至るプロセスが見当違いも甚だしいような感じを受けます。

「積極的に参加している」などの「積極的」などは、このワードがしっかり意味を持って成立しているので「積極性をもって」などに言い換えなくともしっかり意味が伝わります。この「～的」は言葉としての認知度はかなり高めですよね。楽観的や悲観的なども同様だと思います。「あの人は行動的だ」などの使い方も「行動性が高い」で言い換えるとかえって変に聞こえます。

「衝動的な犯行」は意味が通じますが、最近よく使われる「獵奇的な」はどうなのでしょう。獵奇殺人と獵奇的殺人と何が違うのでしょうか。「獵奇的な彼女」という映画がヒットしました。私は見たことがないのですが、何となく「獵奇的」の使い方に違和感を持ってしまいます。映画を観たら納得できるのかもしれません。

国会答弁で「なんでそのようなご発言をしたのですか？」などの質問に「総合的に勘案して」などと答えることがあります。これは「細かいことも含めてよく考えているから具体的に説明するつもりはないよ」と言っているような気がします。「総合的」がつくと範囲がものすごく広がるのでそれ以上つっこむことができなくなります。

「総合的な探究の時間」もフィールドは一切制限をかけないよという意味があると考えています。何を探究しても良い、自由な学びの時間という意味が伝わってきます。